

10月31日 優秀な美術作品の 出品者へ表彰



第26回串間市美術展表彰式

特選、奨励賞、努力賞、新人賞の4つの表彰がありました

10月30日から11月5日まで、第26回串間市美術展の作品が串間市文化会館にて一般公開されました。会場内には素晴らしい作品がたくさん展示され、観覧する人々を魅了していました。翌日31日には3つの部門(絵画・書道・写真の部)の表彰式が同施設の大ホールで行われました。今回「砂猫」という題で写真の部で特選となった日南市在住の高橋美和子さんは「タイトルにもこだわったことを高く評価してもらい、受賞できてうれしいです」と話していました。串間市内からは6人が受賞しました。

11月3日 温かい光に包まれて

旧吉松家住宅前市民広場が家庭などから集めた廃油で作るキャンドルの温かい光と幻想的な空間で包まれる「キャンドルナイトinくしま」。今年は約1000個のキャンドルと燈籠に新しく「竹灯籠」を加え、モダンな光が訪れる人々の心を温めました。このキャンドルナイトは今日SDGsが浸透してきた影響もあり、例年よりボランティアや点火をする市民が多く参加。主催の「環境ボランティアグループ環の会」代表の河野幸子さんは「気象問題が無視できない状況の中、自分たちに何ができるのかを言葉ではなくて見ていただくことで環境問題についての興味に火がついてくれたらうれしいです」と話していました。当日はプロジェクターに市内小中高生が考えたエコメッセージ最優秀賞の朗読映像の放映などもありました。



心温まるキャンドル

11月3日 2年ぶりの市民秋まつり



焼き芋を買い求める来場者

本市の三大イベントの一つである「第55回串間市民秋まつり」が道の駅「くしま」駐車場をメイン会場として2年ぶりに開催されました。新型コロナウイルス感染予防のため、市民パレードやミス六花選出などは中止となり、地場産品などが並ぶ産業祭のみ実施。会場には多くの家族連れらが訪れ、甘藷を使った焼き芋や焼きそば、地鶏などを買い求めていました。会場ではその他、都井地区の伝統芸能である「臼太鼓踊り」や串間中学校吹奏楽部による演奏も披露され、来場者は足を止めて楽しんでいました。かな保育園年長の吉松天真くんは「久しぶりの祭りで、ご飯もおいしく楽しかった」と笑顔で話していました。

10月15日 福島高生が働く意義について考える

福島高校で企業説明会「ミライ発見探究会」が行われました。同校1、2年生と串間中学校2年生の計約260人が参加。説明会は県内企業への理解を深め、将来的な就職につなげる目的で開催。地元企業など14企業・団体がブースを構え、各担当者から動画やクイズなどを交えながら仕事のやりがいなどについて話し、生徒は働く意義について考えていました。同高校1年生の浜田杏華さんは「いろいろな分野の仕事内容を聞けてよかった。人の役に立てる仕事に就きたいと思っているので参考にしたい」と話していました。



宮崎果汁のブースでは仕事の体験も行っていました

10月18日 地域での高齢者の移動手段確保について協議



地図上に要移動支援者の年齢や運転免許の有無などの情報を書き込むチーム本城のメンバーら

本城地区の地域連携組織「まちづくり協議会『チーム本城』」は、高齢者の移動手段確保に向けた座談会を本城ふれあいセンターで行いました。自由に買い物や通院などができない住民のニーズを把握し、自家用車などを使った地域の助け合いによる輸送システムを検討するため、県の「中山間地域移動手段確保支援事業」を活用し開催。チーム本城や市社会福祉協議会から約10人が参加し、地区内の要移動支援者を把握するためのマップ作りを実施しました。鎌田芳徳会長は「地域での輸送システムの構築に向けて引き続き協議していきたい」と話していました。今後は、要移動支援者宅でのヒアリングや先行地視察などを実施していく予定です。

10月26日 美咲豚がグランドチャンピオン

牛・豚の肉質を競う第63回宮崎県畜産共進会肉豚枝肉の部で、本市の美咲豚がグランドチャンピオンに輝きました。このチャンピオンを育てたのは後継ぎとして就農し12年間努力し続けた山崎一博さん。今年は餌の価格高騰もあり苦しい状況でしたが努力を絶やさず、手間をしっかりとかけたことで、肉の付き方や体重などの評価項目にて10点満点中、9.3点という高成績を収めました。今回の受賞にあたり山崎さんは「最初は冗談かなと思っていたので驚きました。やっとこれまで支えてきてくれた人たちへの恩返しができます。美咲豚は市内では道の駅「くしま」やスーパーほりぐちで購入できるので、皆さんに美咲豚のおいしさを知ってもらえると嬉しいです」と話していました。



山崎さんと生まれたばかりの授乳中の子豚たち